

学生の学修状況調査の集計結果について

2019年度から実施している内容で、本学（武蔵丘短期大学）学生の学修状況等を把握し、教育の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として、「平均的な1週間の行動パターン」について、調査を実施した。対象は、共通基幹科目の「健康の心理学」（1年生）及び「健康管理論」（2年生）の履修者とし、時期は2022年6月下旬～7月上旬の授業時間内に、健康教育・時間管理指導の一環も兼ねて行った。

有効回答数は、1年生が122名、2年生が34名であった。したがって、全学生（1年生145名、2年生132名（留年・休学者除く））に対する回答率は、1年生が84.1%、2年生が25.8%となる。

この調査から「1週間あたりの授業時間」「1週間あたりの授業外学習時間」「1週間あたりのアルバイト時間」「1日あたりの睡眠時間」「1日あたりのスマホ等使用（インターネット・SNS・YouTubeなど）時間」について、集計した結果は次の通りである。

「1週間あたりの授業時間」については、1年生は「21～26時間」が48%、「26時間超」が35%と多く、増加した昨年度よりさらに授業時間数は増加している。コロナ禍により時間割を変更した影響が考えられる。2年生は「16～21時間」が44%と最も多く、平均的な履修時間が多くなっている。

「1週間あたりの授業外学習」については、1年生は「1時間未満」が28%、「1～2時間台」が21%、「3～5時間台」が22%と、絶対的な時間数が少ない現状があり、学習習慣に課題があることがわかる。前述の1週間あたりの授業時間数が多い学生では結果的に少なくなる影響が出やすいと伺える。2年生についても、全体的に時間数が少なく、3時間未満として合わせると76%となり、学習の習慣化にも課題がある。

「アルバイト時間」については、2年生でアルバイトを行う学生の割合が増加している。これについても一週間の授業時間数が影響していると考えられる。

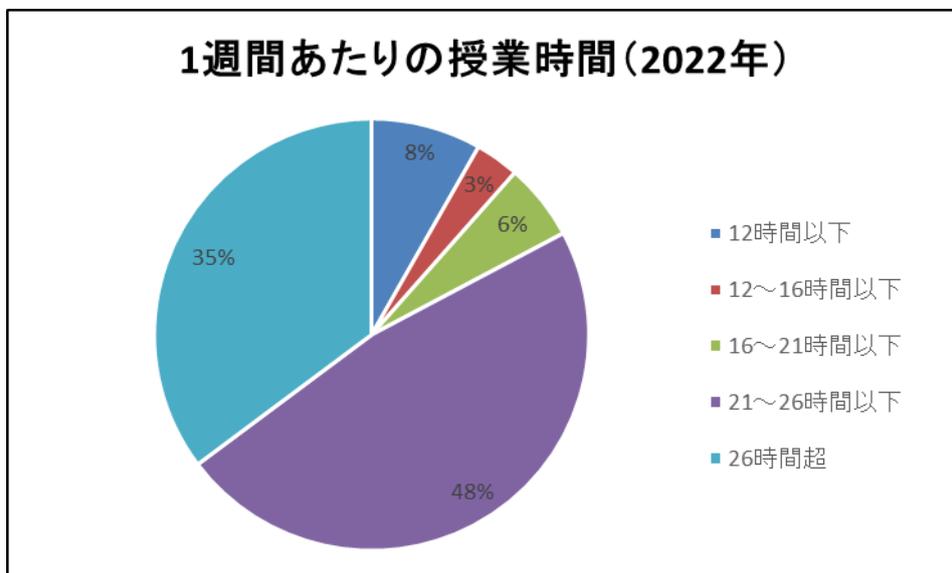
「1日あたりの睡眠時間」については、1年生は「5～6時間未満」が34%で最も多く、2年生では「6～7時間」が32%と最も多いという結果になった。これも一週間あたりの授業時間数の影響と、後述のスマホ等使用時間が影響していると考えられる。

「1日あたりのスマホ等使用時間」について、「6時間以上」が、1年生で10%、2年生で9%であった。このスマホ等使用については、生活習慣の乱れや睡眠不足など学習も含めた学生生活へ悪影響を及ぼす恐れがある。一方で、教育・文化・スポーツ等の情報や就職・進路情報など、学生のキャリア形成にとって役立つ内容も充実しており、自己管理・時間管理のもと有効に活用していくことを期待したい。

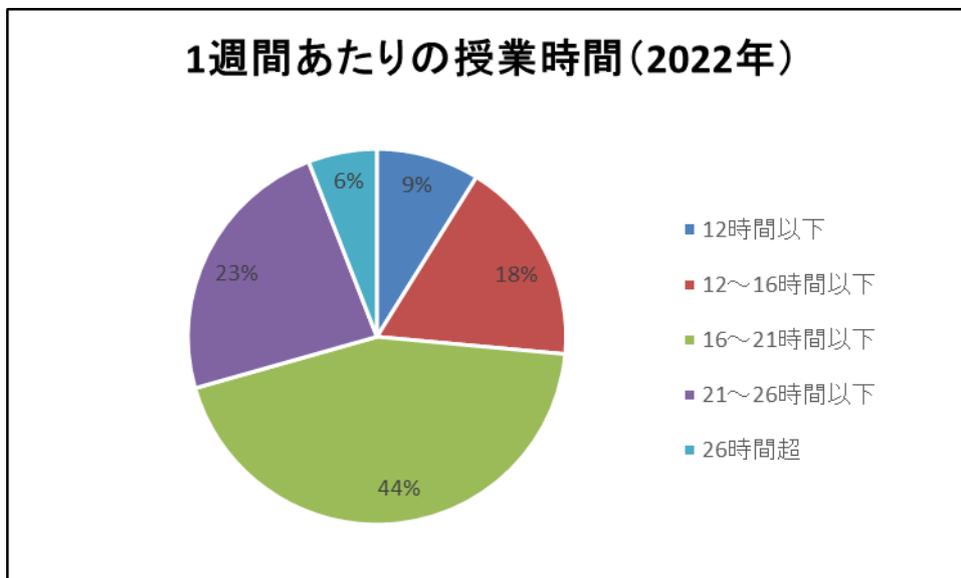
（文責・岡崎英規）

【1週間あたりの授業時間】

1年生

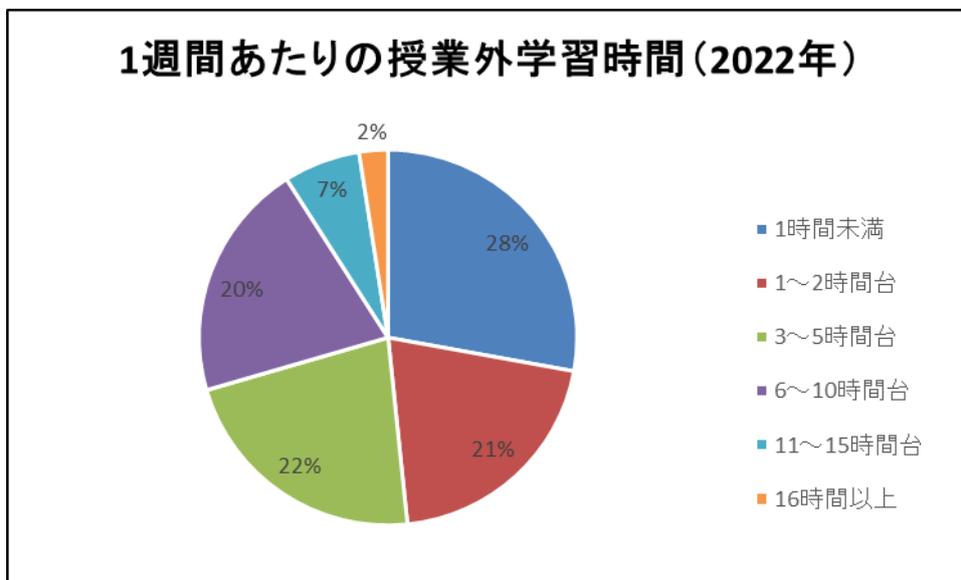


2年生

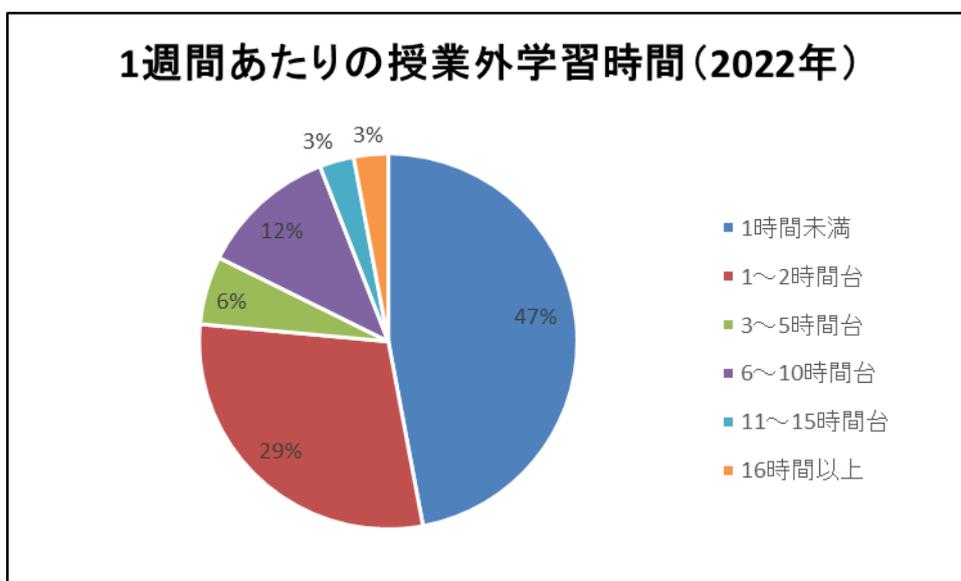


【1週間あたりの授業外学習時間】

1年生

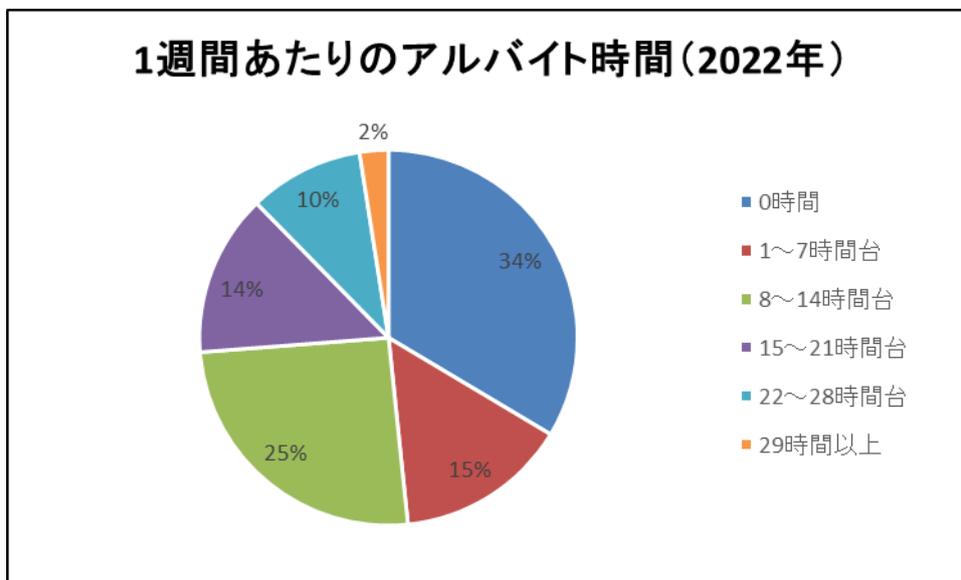


2年生

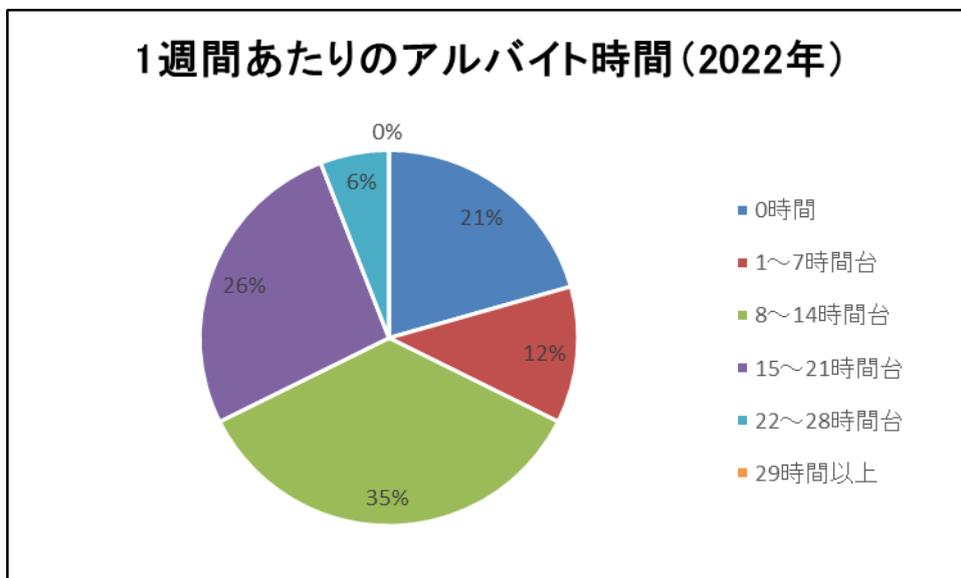


【1週間あたりのアルバイト時間】

1年生

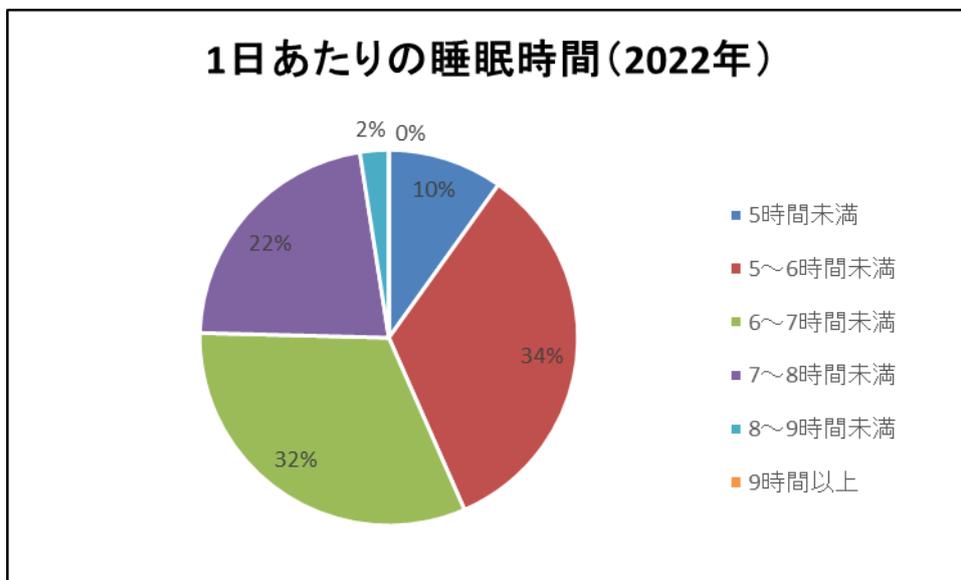


2年生

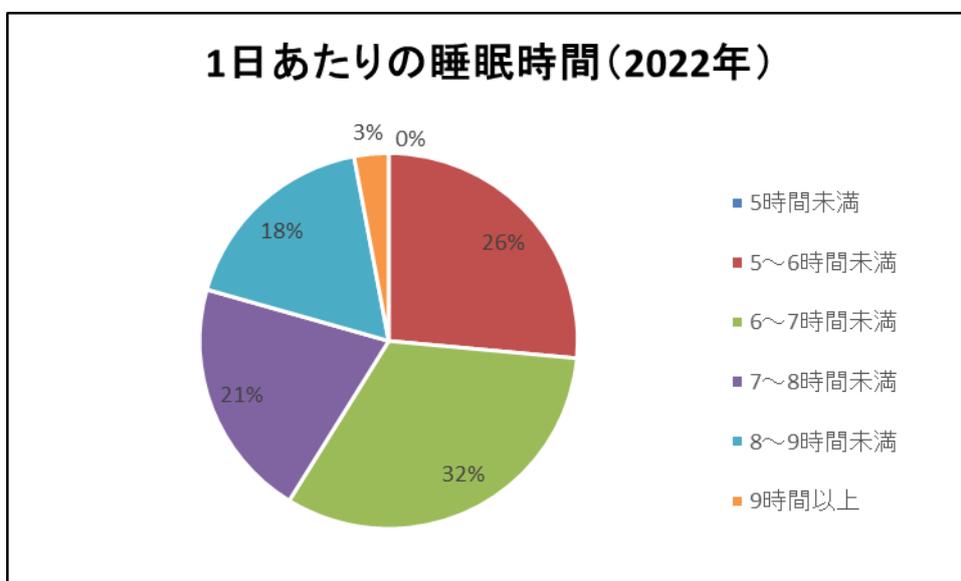


【1日あたりの睡眠時間】

1年生

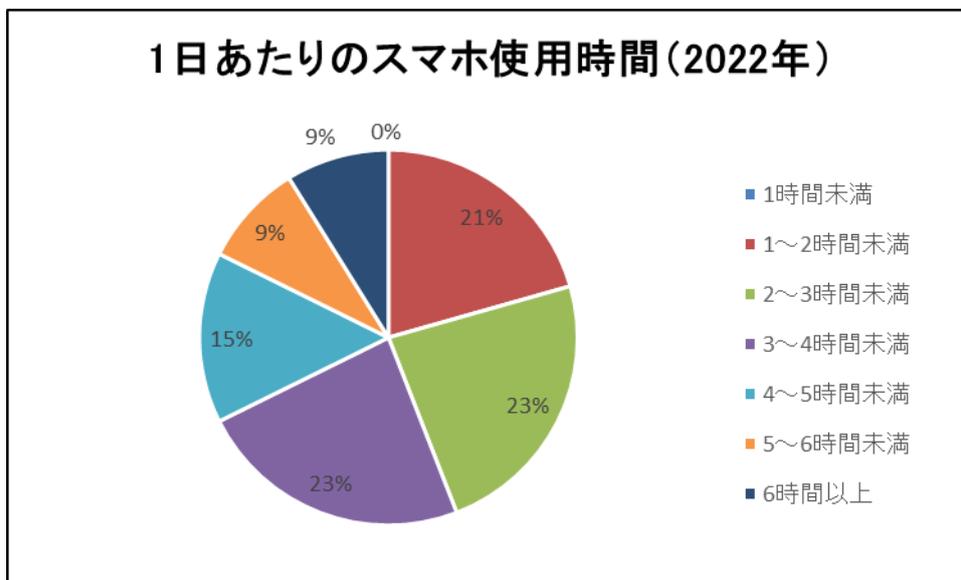


2年生



【1日あたりのスマホ等使用（インターネット・SNS・You tube 含む）時間】

1年生



2年生

